

令和7年度小松市立串小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>〈発達支持的生徒指導の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が一人ひとりの児童にあたたかい声かけ、具体的な成長を伝える言葉かけをするなどして、発達支持的生徒指導を行う。 ・なりたい自分・仲間の目標を考えさせ、目標に向けての活動を児童自身が企画、実践できるよう支援するとともに、生徒指導の4つの視点（自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安心、安全な風土）を生かした授業づくりを行い、児童の主体性を育む。 ・いじめアンケートや面談タイムを生かして、いじめ・不登校の未然防止や早期発見に努め、児童一人ひとりが「学校が楽しい」と思えるようにする。 		
	<p>〈組織的な対応を行い、個に応じた支援の充実を図る〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援校内委員会で特別支援学級児童だけでなく、配慮の必要な児童の現状について共有し、支援のあり方について話し合い、適切な支援を組織的に行う。 ・特別支援教育支援員、学習支援員、スクールカウンセラー、心の相談員等と効果的に連携し、支援体制の充実を図る。 ・小松市教育研究センター相談事業、県専門相談員派遣事業を活用し、個に応じた支援の充実を図る。 ・学年間、全教職員間で支援のあり方について話し合い、生徒指導との効果的な連携を図りながら、チーム力を生かして適切な支援を行う。 		
道徳教育	<p>〈確かな道徳性を育む道徳教育の推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えとなる発問、自己の生き方について考えを深める交流を工夫した道徳科の授業を実践する。 ・教育活動全体を通して日常的に道徳的価値を意識できる言葉かけを行う。 ・重点目標の「善悪の判断、自律、自由と責任」「より良い学校生活、集団生活の充実」を意識した活動を設定し効果的な指導に努める。 ・夏休み、冬休みの家庭学習として、「家族道徳」に取り組む、家庭でも道徳的価値を意識できるようにする。 		
	<p>〈望ましい生活習慣の確立と体力・運動能力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア機器（テレビ・ゲーム・スマートフォン等）との付き合い方に焦点を当て、生活リズムの乱れや睡眠不足、運動習慣といった健康課題への気付きを促す取り組みを進めていく。あわせて全校での共通理解を図りながら学級活動や保健指導の場を活用し、メディア機器が心身に与える影響を知り、適切な使い方について考える機会を設ける。 ・「体力アップ1校1プラン」の取り組みを全校で計画的に推進し、体力・運動能力の向上を目指す。また、全校で「スポチャレいしかわ」に継続的に取り組むことで、楽しみながら運動に親しむ態度を育て、体力向上への意識づけを行う。 		
人材育成	<p>〈若手の指導力育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に若手教員向けの校内研修を行う。ICTに関する研修を中心にを行い、授業で実践できるようにする。 ・内容に合わせてⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期の対象者を限定して研修を行う。 ・それぞれの教員が得意とする分野を生かし、研修の担当者を決定する。 ・行事や授業の内容に合わせて、必要な研修を精選する。 		
	<p>〈社会に開かれた教育課程の実現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材、地域教材を活用し、地域理解・地域への愛着を高める取組を行う。 ・家庭・地域に、学校だよりやホームページ、コドモンを活用して、学校の教育活動について積極的に発信する。 ・わが町防犯隊と連携し、児童が安心安全に登下校できるように配慮する。 		
家庭・地域との連携	<p>〈社会に開かれた教育課程の実現〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材、地域教材を活用し、地域理解・地域への愛着を高める取組を行う。 ・家庭・地域に、学校だよりやホームページ、コドモンを活用して、学校の教育活動について積極的に発信する。 ・わが町防犯隊と連携し、児童が安心安全に登下校できるように配慮する。 		
学校関係者評価			

学校関係者評価			
---------	--	--	--